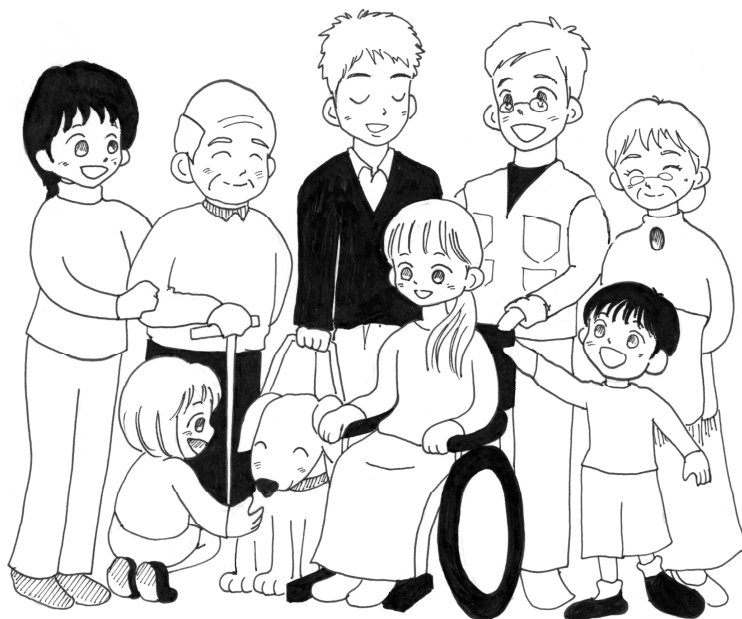


男女共同参画の視点から考える

市政広報物表現ガイドライン



ひたちなか市

1 広報に男女共同参画の視点をプラス

公的な広報物は、市民に必要な情報を正確に、わかりやすく伝えることが必要です。しかし、それだけで充分でしょうか？伝えたいことをどう表現するかも重要です。内容以前に表現への反感を招くようでは、施策への理解や協力は得られません。女性、高齢者、障害者、年少者、外国人など多様な受け手を意識し、共感を得られるような表現を心がけなければなりません。

公的広報の作成にあたっては、「ひたちなか市男女共同参画推進条例」の趣旨を踏まえ、性別に基づく固定的な役割分担意識等を助長することのないよう、表示内容などに配慮し、男女の多様なイメージが社会に浸透していくような表現にすることが求められています。

情報をより望ましい表現とするためには、広報の作成者である職員自身が常に意識することが重要です。このガイドラインは、そのための参考として作成しました。

2 ガイドラインの対象

市が発信するすべての情報が対象です。具体的には、次のような例がありますので、これからの業務を行うときは、このガイドラインを特に留意するとともに、日ごろの市民の皆さんとの会話、会議等で説明したりする場合などにおいても参考にしてください。

パンフレット・ポスター・市報掲載記事・市ホームページ・新聞や雑誌への記載・その他の刊行物・報道発表資料など
留意すべき表現の手段は、文章、イラスト、写真、映像、音声など

3 考慮すべきチェックポイント

男女いずれかに偏った表現になっていませんか？

性別によってイメージを固定化した表現になっていませんか？

性別による役割分担を固定化した表現になっていませんか？

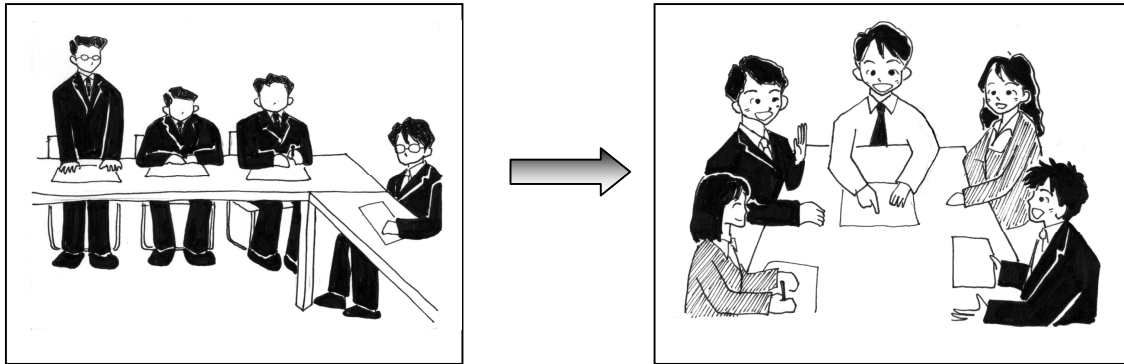
男性を女性より優位的に、男女の間に主従関係があるような表現をしていませんか？

女性を“アイキャッチャー”にいませんか？

言葉の表現・統計表記も気をつけましょう。

男女いずれかに偏った表現になっていませんか？

市の情報の多くは、性別を問わず全ての人に関わるものです。でも、広報物の登場人物が極端に男女のどちらかに偏ったり、どちらかを排除したりしていると、広報の内容が男女双方に関係するにもかかわらず、伝えるべき相手に正しく伝わりません。



女性が参加できる行事でも男性ばかりを描くと女性が参加しにくい印象を与えます。また、男性のみが代表として登場することで男性主導という印象を与えてしまいます。男女のバランスに配慮した表現を心がけましょう。

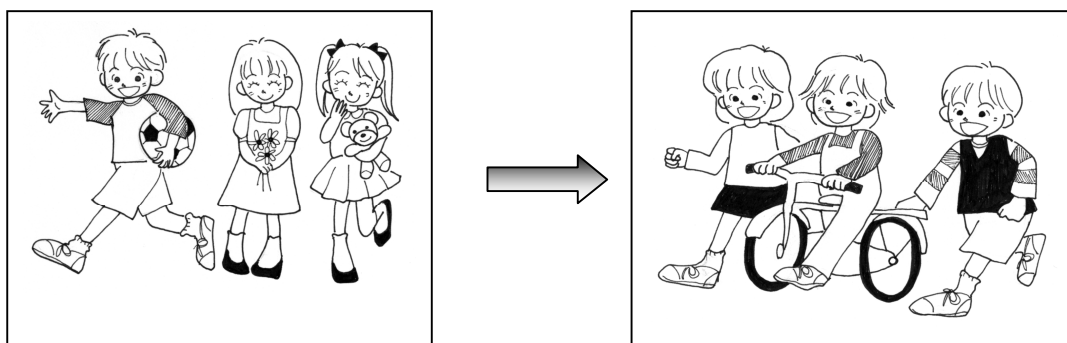
性別によってイメージを固定化した表現になっていませんか？

服装や外見、趣味や関心、性格や振る舞いを性別によって固定化して表現していませんか？好みや行動は性別によって決まるものではなく、人それぞれの個性によることが多いものです。

服装や外見でことさら性の区別を行っていませんか？

例えば・・・女性・女の子は赤系。スカートやエプロン。

男性・男の子は青・黒系。背広、ネクタイ姿。

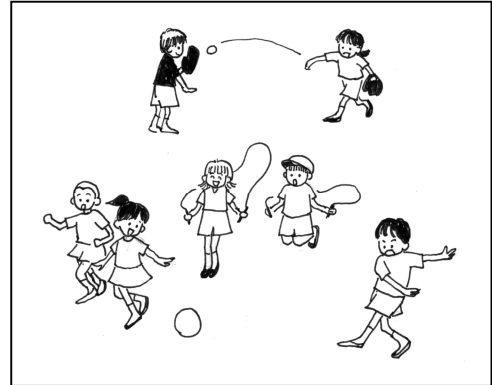


女性も男性も好みの色や服装は個人によって違います。

関心，趣味，性格，行動を性によって区別していませんか？

例えば・・・男性・男の子は，激しいスポーツや科学技術の分野

女性・女の子は，ぬいぐるみや文学・福祉の分野



男の子も女の子もいろいろな遊びをしています。男性も女性もいろいろなことに興味・関心を持って活動している現実を表現したいものです。

性別による役割分担を固定化した表現になっていませんか？

性別に関係なく，いろいろな職業についているのが現実です。また，家庭や地域での役割分担もいろいろです。

男女が仕事や家事・育児で協力しあったり，いろいろな職業についている現実を反映させる表現をしましょう。

「医者・消防士は男性，看護師・保健師・保育士は女性」と，性別によって職業を分ける表現をしていませんか？



職業が性別で固定化されたイメージにならないよう，男女がいろいろな職業についている表現を用いる工夫をしましょう。

「女は家庭 ,男は仕事」といった性別による役割分担を強調した表現になっていませんか？

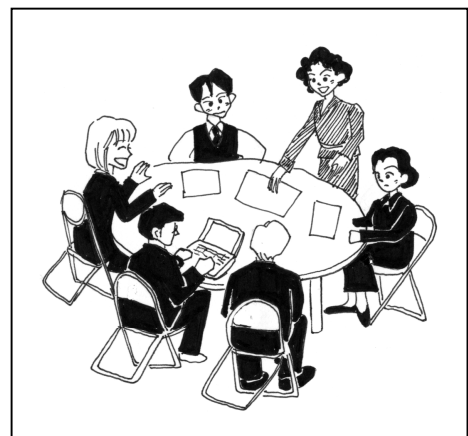
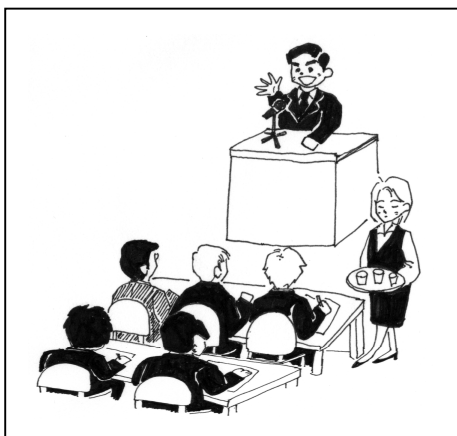


少子高齢社会の問題を解決する方法のひとつとして ,子育てしやすい環境づくり等があげられます。子育てや家庭での仕事は女性だけが担うものではなく ,男性も家庭での役割を担っている姿を表現するよう心がけましょう。

男性を女性より優位的に ,また男女の間に主従関係があるような表現をしていませんか？

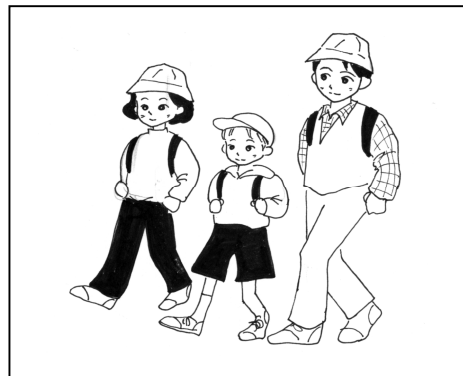
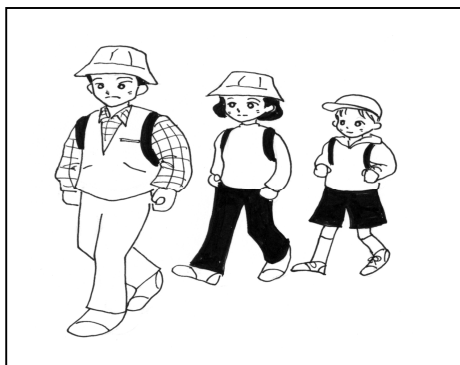
男性は前に。強くて大きいのは男性。このように上下 ,優劣 ,強弱 ,大小 ,前後。これらを性別で強調した表現にすると ,男性が優位的で女性と男性の間に主従関係があるようなイメージを与えてしまいます。男性と女性の間で ,どちらかが強いとか ,どちらかが上である ,下であると見てとれる表現にならないよう心がけましょう。

「リーダーはいつも男性」そのような表現をしていませんか？



地域・学校・職場等で ,男性も女性も多様な役割を持った者として表現しましょう。

男性を大きく前面に強調し，女性を控えめに表現していませんか？

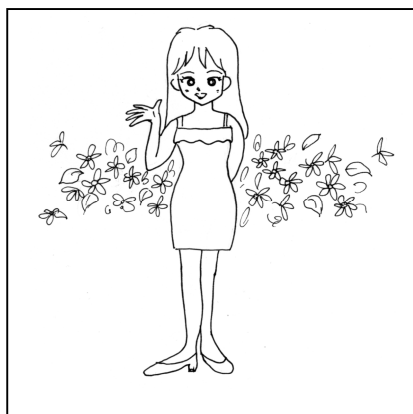


家族や夫婦は相互協力的，並列的な表現にしましょう。

女性を“アイキャッチャー”にしていませんか？

アイキャッチャーとは，広報物に注目させるための視覚的要素のことで，広告手法の一つとされています。単に見る人の目を引くためだけの目的で，ポスターなどに若い女性を用いること等がその例です。

若い女性を載せると見る人にはソフトな印象を与えるかもしれませんが，広報のテーマやねらいとは無関係に女性を用いることは，女性を「飾り物」として取り扱っていると受けとられかねません。また，男性の起用に関しても同じことが言えます。



「伝えたいものは何か」をよく考え，伝える内容や目的に合った表現方法を工夫しましょう。

言葉の表現・統計表記も気をつけましょう

言葉の表現は，ストレートに伝わることから強い影響力をもちます。差別につながる表現や，いずれかの性が優先されるような表現を避け，男女が対等になる表現になるよう注意しましょう。

統計は、客観的資料として問題の分析などに使用されます。男女別を調査することにより見えてくる問題解決の方法もあります。

人数に関するデータについては、できるだけ男女別のデータを把握し、表記についても男女別の内訳を並列的に示してください。

男性を優先させる表現

例えば	→	こんな表現に
・営業マン	→	営業社員
・オンブズマン	→	オンブズパーソン、オンブッド
・キーマン	→	キーパーソン
・父兄	→	保護者
・男顔負け	→	使用しない
男まさり		
女だてらに		

女性であることを強調する表現

例えば	→	こんな表現に
・女教師	→	教師
・女子アナ	→	アナウンサー
・女医	→	医師
・女性議員	→	議員
・職場の花	→	使用しない
美人秘書		
女性初		

紹介呼称

例えば	→	こんな表現に
・男性は 君	→	男女とも
氏、女性は		「さん」「氏」に
さん(ちゃん)		
女史		
・男性を姓で女性	→	男女とも同じ
は名前表記		表記で

統計上の表記

例えば	→	こんな表現に
・合理的な理由なく	→	合格者 人
女性のみを内数で		(男性 人
表記する		女性 人)
合格者 人		
(内女性 人)		
・常に男性を	→	女性が多い場合な
先に表記する		ど、数値に応じて表
		記を変える

これらは一例にすぎません。男女どちらにも使える対等な表現になるよう注意しましょう。

4 チェックの仕方

多くは、男性と女性を入れ替えてみて『変だな』と感じるかどうか判断の目安となります。例えば『女医』という言葉がありますが、『男医』とは言いません。

基本的に、問題かもしれないと思ったらその表現は使わないようにします。そして、できるだけ男女両方の職員が入ってチェックしてください。普段気づきにくいことが見えてきます。

男女共同参画の視点から考える
市政広報物表現ガイドライン
市民生活部・女性生活課
イラスト協力：深谷優子